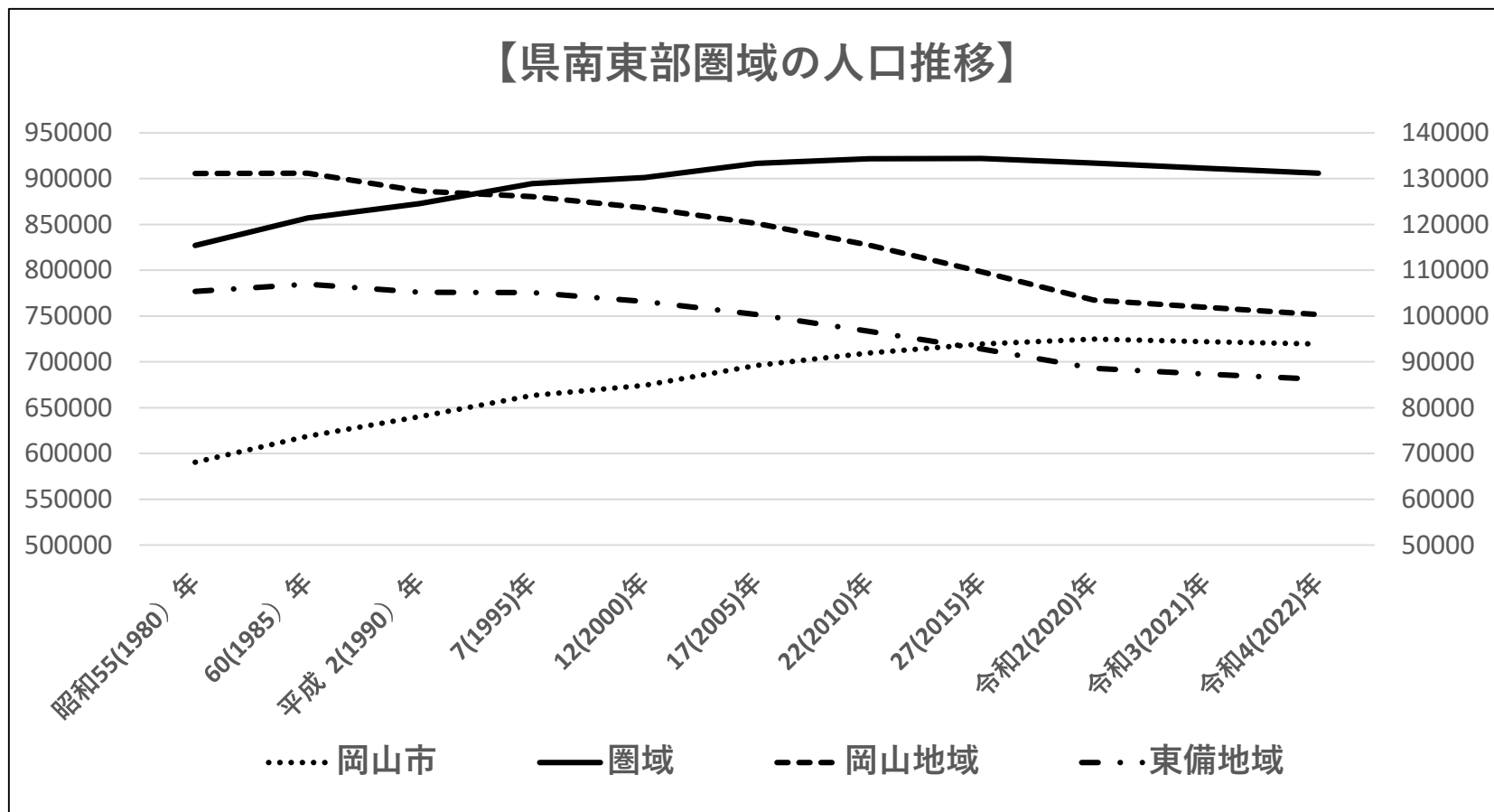


県南東部保健医療圏地域保健医療計画 (素案)

1 保健医療圏の保健医療の現状

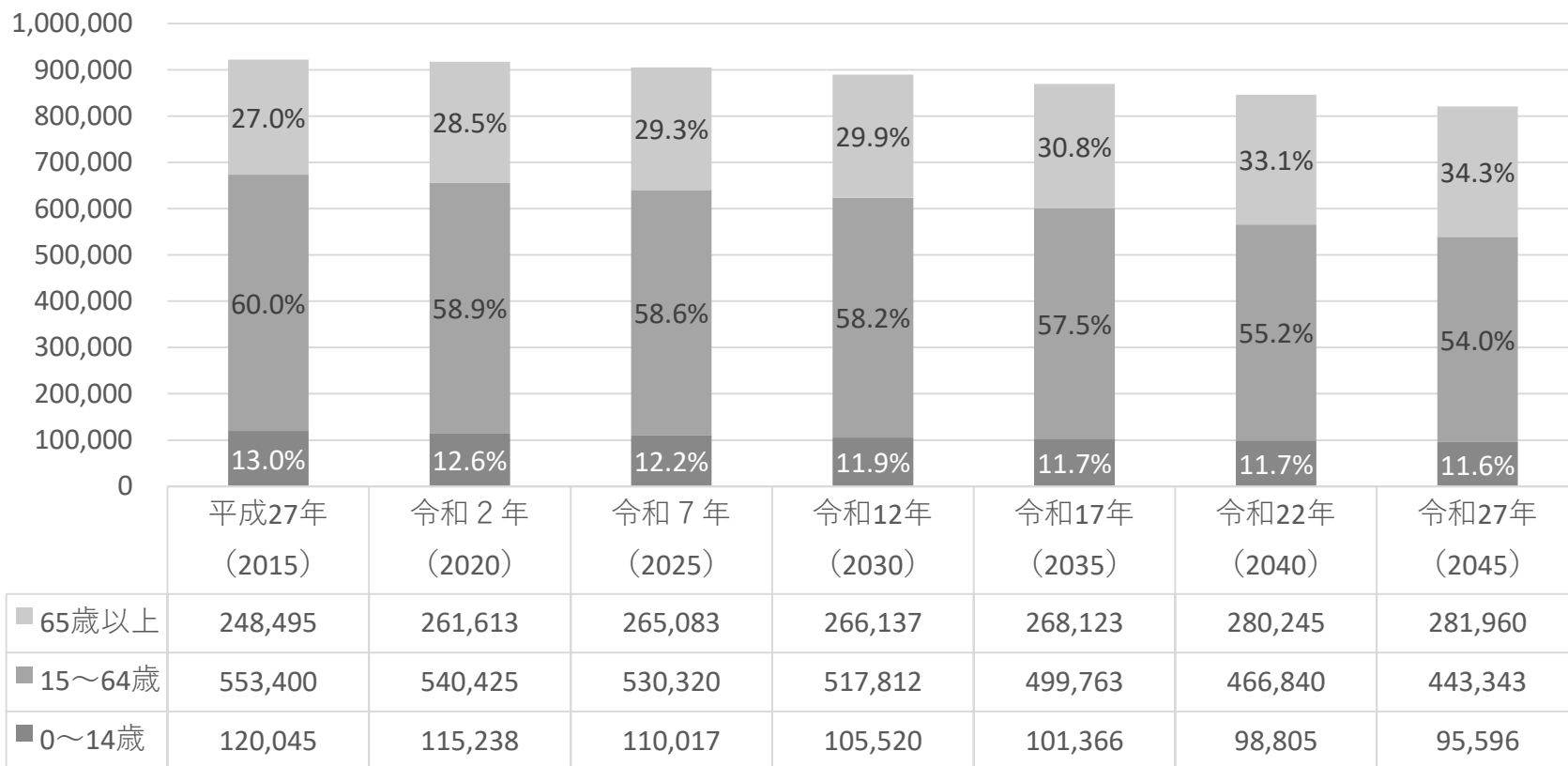


(資料：総務省統計局「国勢調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)

圏域は平成27年、岡山市は令和2年、岡山地域及び東備地域は昭和60年以降減少が続く

2 保健医療圏の保健医療の現状

【県南東部圏域の将来人口の推移】



(資料：総務省統計局「国勢調査」国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来推計人口」(平成30(2018)年3月推計)

年少人口及び生産年齢人口割合が低下し、老年人口割合が増加する

3 医療提供体制の構築

3－（1） 地域医療構想

現状と課題

- ・ 病床の機能分化と連携、在宅医療・介護の促進等、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築と、地域包括ケアシステムの構築が必要。

施策の方向

- ・ 圏域内の医療機関相互の協議の場（**県南東部地域医療構想調整会議**）での情報共有
- ・ 医療機関の**役割分担と連携**を支援

3－（2） 外来医療に係る医療提供体制の確保

現状と課題

- ・岡山市周辺地域での外来医師不足が深刻
- ・在宅医療、初期救急医療や学校医等を担う診療所・医師が不足

※外来機能報告、紹介受診重点医療機関については議事2で提示

< 県南東部保健圏域市町別診療所数の内訳（R3.10.1） >

	一般診療所数			歯科診療所数		
	総数	有床	無床	総数	有床	無床
岡山市	700	63	637	450	0	450
玉野市	49	3	46	35	0	35
瀬戸内市	28	1	27	15	0	15
吉備中央町	12	0	12	5	0	5
備前市	33	1	32	17	0	17
赤磐市	34	0	34	25	0	25
和気町	12	2	10	5	0	5
圏域	868	70	798	552	0	552

（資料：医療施設調査 令和3（2021）年）

施策の方向

- ・外来機能分化・連携
- ・地域で不足する役割を担う医師の増加
- ・医療機器の共同利用



圏域の診療所の約80%が岡山市内に集中

3－（3） 5 疾病・6 事業及び在宅医療の医療連携体制

現状と課題（全体）

- ・多くの関連事業が**新型コロナウイルス感染症の影響で停滞**しており、今年度から来年度にかけて、徐々に通常どおり再開できる状況
- ・今後さらに加速すると予想される**少子高齢化**に対して、各分野においてこれに対応できる**医療連携体制の構築**が必要
- ・二次医療圏単位ではなく、**各市町**の特性に合わせた**医療・介護提供体制**の構築が必要

3－(3)－① がん

現状と課題

- ・ 肺がん以外の**がん検診受診率が県と比較して低い**
- ・ 県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院（3病院）があり、がん医療が充実している圏域

< 部位別がん検診受診率（令和3（2021）年） >

	胃	肺	大腸	乳	子宮頸
岡山市	5.6	6.8	5.7	15.3	11.0
岡山地域	※ 5.2	6.0	5.6	17.1	12.8
東備地域	3.5	7.0	5.8	17.3	14.1
圏域	※ 5.3	6.7	5.7	15.7	11.5
岡山県	※ 5.6	6.4	6.0	17.6	13.8

※受診率は、計数が不詳の市町を除いた値
（資料：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」）

施策の方向

- ・ がん予防の普及啓発、検診方式の工夫等による**がん検診受診率の向上**
- ・ がん診療連携拠点病院等を中心に、**パス活用等による地域連携**の促進

3－(3)－② 脳卒中

現状と課題

- ・ 脳血管疾患は令和3年の死因別死亡の第4位（全死亡の7.0%）
- ・ t-PA静脈内投与等が24時間可能な急性期医療機関が圏域に10施設ある（県内に15施設）
- ・ 「もも脳ネット」が中心となり、**地域連携**を推進している

施策の方向

- ・ 「もも脳ネット」と連携し、**地域連携クリティカルパスの活用等を進める**
- ・ **病院前救護**についての普及啓発に取り組む

3－（3）－③ 心筋梗塞等の心血管疾患

現状と課題

- ・ **急性心筋梗塞**の標準化死亡比が、**男女ともに170前後と高値**
- ・ 急性期医療機関は10施設（県内に13施設）あり、回復期、再発予防施設も多く、医療連携を進める必要がある

施策の方向

- ・ 生活習慣病予防・改善についての普及啓発
- ・ 急性期医療機関、回復期医療機関、かかりつけ医の**役割分担と連携**の推進を図る

3－(3)－④ 糖尿病

現状と課題

- ・ 糖尿病の**発症予防や重症化予防**が課題となっている
- ・ 糖尿病専門治療医療機関の**役割分担や連携**を推進し切れ目のない医療連携体制の構築が必要

施策の方向

- ・ 市町や関係機関と連携し、**特定健康診査の受診率向上**に取り組む
- ・ 各関係機関と連携し、**地域連携パスの活用による医療連携体制**の構築や、地域における糖尿病の栄養管理支援環境づくりを推進する

3－（3）－⑤ 精神疾患

現状と課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による**心の健康問題の増加**
- ・ 患者の退院から**地域へ定着するための支援**の推進が必要
- ・ **認知症高齢者が今後さらに増加**すると予想されるため、市町や地域包括支援センター、認知症疾患医療センターとの連携が引き続き必要

施策の方向

- ・ 精神科救急を含めた精神疾患に対する地域連携体制を構築し、患者が**地域生活へスムーズに移行**できるよう取組を進める
- ・ **岡山県備前地域認知症疾患医療センター地域連携会議**等を通じて、認知症施策をさらに推進する

3－（3）－⑥ 救急医療

現状と課題

- ・ 二次・三次救急医療機関は充実しているが、**患者の病状に応じて適切な医療機関へ迅速に搬送できる体制をさらに整備する必要がある**

施策の方向

- ・ **適切な救急の受診**についての普及啓発
- ・ 救急搬送状況の共有等によって救急医療体制をさらに充実させるため、協議会等の場でよりよい体制について検討を継続する

3－（3）－⑦ 災害時における医療

現状と課題

- ・ **基幹災害拠点病院 1 か所、地域災害拠点病院 4 か所**が指定されている（いずれも岡山市内）
- ・ 災害時に難病患者等を速やかに受入れるための医療支援体制整備を進める必要がある

施策の方向

- ・ **平時から**、医療機関を含む関係機関との連携を図り、医療支援体制の整備を進める
- ・ 災害時の速やかな対応を図るため保健所職員の資質向上に努める

3－（3）－⑧ へき地の医療

現状と課題

- ・ 無医地区が2市4地区、無医地区に準ずる地区が1市3地区
- ・ 高齢化が進むへき地において、円滑な搬送体制、地域での連携体制を整備する必要がある

施策の方向

- ・ **へき地医療拠点病院（3か所）等と連携し、へき地の医療を確保するよう努める**
- ・ 高齢者の急変等に対応するため、**地域の医療機関との連携を進める**

3－(3)－⑨ 周産期医療

現状と課題

- ・ 3か所の周産期母子医療センターは岡山市内に所在
- ・ 周産期死亡率は長期的に低下傾向

施策の方向

- ・ 周産期医療機関や市町と連携し、ハイリスク妊産婦等への支援体制を整備する

3－（3）－⑩ 小児医療（小児救急医療を含む）

現状と課題

- ・岡山市内2か所の**小児救急医療支援病院へ軽症患者が集中**する傾向にあり、地域での初期救急医療体制の充実が求められている

施策の方向

- ・市町、保育施設等と連携し、**症状に応じた救急受診についての普及啓発**を推進する
- ・県南東部圏域救急医療体制推進協議会において、小児救急医療体制について検討する

3－（3）－⑫ 在宅医療

現状と課題

- ・ 高齢者の在宅医療ニーズが増加する中で、関係団体と連携し、在宅医療の充実・介護も含めたサービス体制を構築する必要がある

< 在宅支援診療所等の数 （単位：施設） >

	在宅療養支援病院		在宅療養支援診療所		在宅療養支援 歯科診療所	
	令和2年	令和5年	令和2年	令和5年	令和2年	令和5年
岡山市	14	17	156	145	61	60
玉野市	2	5	7	6	1	1
瀬戸内市	0	0	9	8	5	7
吉備中央町	0	0	3	2	0	0
備前市	1	1	4	3	4	4
赤磐市	0	0	6	6	6	6
和気町	0	1	3	1	1	2
圏域	17	24	188	171	79	80
岡山県	42	62	309	286	148	147

在宅療養支援診療所数
が減少している

施策の方向

- ・ 在宅パスの活用等による在宅ケアの充実、市町が取り組む「在宅医療・介護連携推進事業」を通じた広域的な視点に立った支援
- ・ 研修会の実施等による多職種連携体制の構築

3－（4） 医療安全対策

現状と課題

- ・ 保健所に医療安全窓口を設置している
- ・ 医療機関における院内感染防止対策や医療安全対策の徹底が必要

施策の方向

- ・ 地域の医療関係機関等において医療安全相談に適切に対応する体制を構築する
- ・ 医療機関への立入検査等を通じ適切な医療安全対策を引き続き進める

4 保健医療対策の推進

4－（1） 健康増進・生活習慣病予防

現状と課題

- ・ 住民主体の健康増進をさらに推進する必要がある
- ・ 特定健診・特定保健指導の受診率が目標値に届いていない

施策の方向

- ・ 第3次健康おかやま21の推進
- ・ 敷地内全面禁煙実施施設認定事業など
- ・ 特定健診・特定保健指導の実施率向上に向け、関係団体と連携して支援

4－（2） 母子保健

現状と課題

- ・ 1歳6か月健診、3歳児健診の受診率がやや不十分
- ・ **妊娠期からの切れ目ない支援**を引き続き充実させる必要がある

< 1歳6か月健診、3歳児健診受診率 >

区 分	平成29年度 (2017)		平成30年度 (2018)		令和1年度 (2019)		令和2年度 (2020)		令和3年度 (2021)	
	1歳6か月児	3歳児	1歳6か月児	3歳児	1歳6か月児	3歳児	1歳6か月児	3歳児	1歳6か月児	3歳児
岡 山 市	95.2	94.8	95.2	94.0	94.3	93.8	96.9	95.5	96.7	96.1
岡山地域	93.8	94.7	96.1	95.2	94.6	94.1	93.9	94.4	93.9	95.2
東備地域	93.6	94.2	93.7	92.0	94.5	95.3	97.3	93.9	97.1	94.7
圏 域	95.0	94.7	95.1	93.9	94.4	94.0	96.7	95.2	96.5	95.9
岡 山 県	95.6	94.6	95.6	94.9	95.4	94.6	96.4	95.8	96.7	95.7

(資料：岡山県健康推進課「岡山県の母子保健」)

施策の方向

- ・ **子育て世代包括支援センター（市町）**による**伴走型相談支援**の充実、子ども家庭センターの設置への支援
- ・ 地域の関係機関と連携し、乳幼児健診受診率向上と未受診児の把握に努める

4－（3） 高齢者支援

現状と課題

- ・ 今後高齢者の要支援・要介護認定者がさらに増加すると予想される
- ・ **地域包括ケアシステムのさらなる推進**が必要である

< 高齢者人口等の現状と推計（単位：人） >

項目	圏域			岡山県		
	現状	推計		現状	推計	
	令和4年度 (2022)	令和7年度 (2025)	令和22年度 (2040)	令和4年度 (2022)	令和7年度 (2025)	令和22年度 (2040)
総人口	905,945	905,420	845,890	1,862,012	1,846,230	1,681,383
高齢者数	258,109	265,083	280,245	557,940	578,686	586,639
要支援・要介護 認定者数	55,631	59,899	67,337	121,970	130,811	145,394

↑ 約2割増

施策の方向

- ・ 市町・地域包括支援センター連絡会議や介護予防を考えるワークショップの開催等を通じた地域包括ケアシステムの構築や推進への支援

4－（4） 歯科保健

現状と課題

- ・ 3歳児のむし歯有病率は減少傾向であり目標値も達成している
- ・ 高齢化が進む中で、食べる機能の強化等によるQOLの向上を図る必要がある

< 3歳児のむし歯有病率（単位：％） >

	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和1年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)
岡山市	17.6	15.9	13.9	12.9	13.5
岡山地域	14.8	18.2	10.4	12.2	12.2
東備地域	16.0	15.8	14.7	14.3	11.5
圏域	17.2	16.1	13.6	13.0	13.2
岡山県	16.1	15.1	13.0	12.4	11.9

（資料：岡山県健康推進課「岡山県の母子保健」）

320（サンニイマル）
運動の目標値は達成

施策の方向

- ・ さらなるむし歯有病率の改善を目指して、乳幼児期からの歯科保健指導の充実を図る
- ・ 医科歯科連携を図り、**寝たきり者や高齢者の口腔ケアを推進**し、誤嚥性肺炎の予防や栄養状態の改善に取り組み、**QOLの向上**を目指す

4－（5） 結核・感染症対策

現状と課題

- ・ 新規の結核患者数は減少傾向、**BCG接種率がやや不十分**
- ・ **高齢者施設等での食中毒や集団感染**の予防対策が課題
- ・ **梅毒患者が急増**しており、若年層への予防教育等の強化が必要

< 新登録結核患者数（単位：人） >

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
岡山市	72	72	59	81	45
岡山地域	8	15	10	11	10
東備地域	24	16	20	10	21
岡山県	187	186	153	183	148

（資料：岡山市、備前保健所「業務概要報告書」）

施策の方向

- ・ 結核患者の**早期発見・早期の確実な治療**を達成するため結核専門医療機関と連携
- ・ 市町等と連携し、**感染症予防対策**の推進に取り組む
- ・ 学校と連携し、エイズ等出前講座等により、**若年層に対する性感染症の正しい知識の普及啓発**に努める

4－(6) 難病対策

現状と課題

- ・ 難病患者と家族の経済的、精神的負担を軽減するため、相談に応じるとともに、各制度やサービスを適切に提供するように努めている

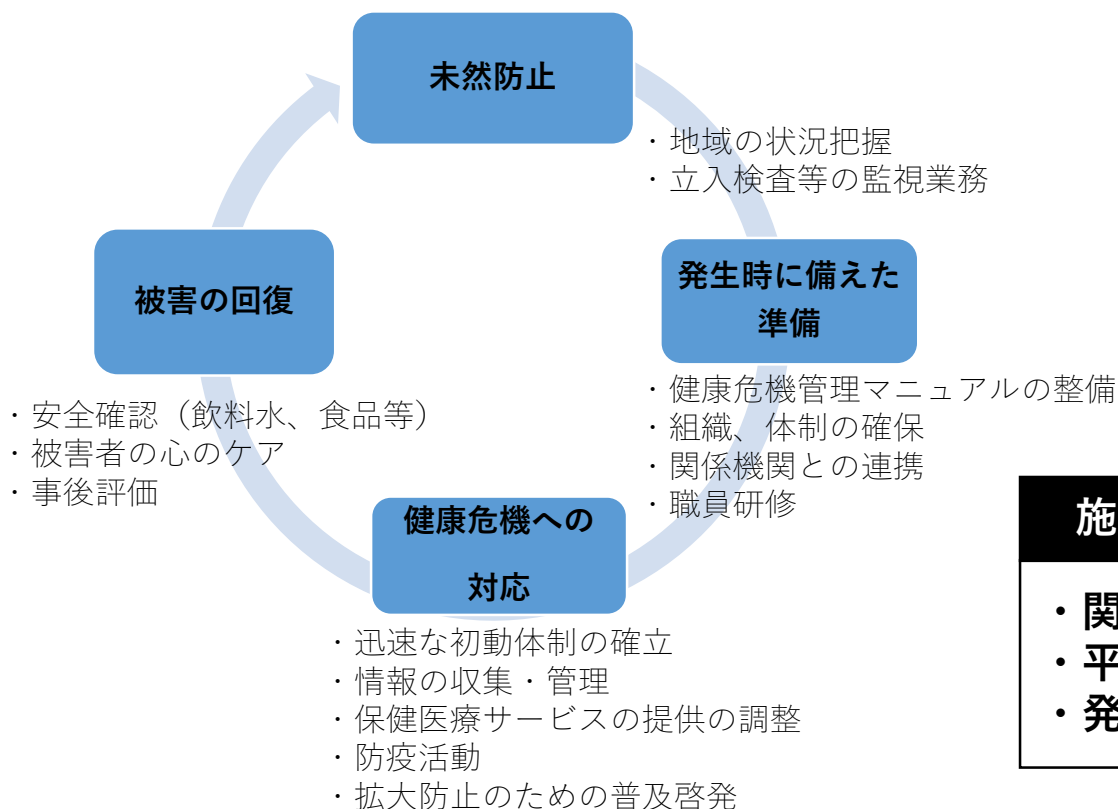
施策の方向

- ・ 県難病相談・支援センター等関係機関と連携し、難病患者を支援する
- ・ 在宅療養支援計画策定評価事業等を通じて、在宅療養生活を支援する

4 - (7) 健康危機管理

現状と課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症の再拡大や空港、港から持ち込まれる新たな感染症への対策、大規模災害への備えが求められる



施策の方向

- ・ 関係機関との関係づくり
- ・ 平時からの予防
- ・ 発生時のすみやかな対応

4－（8） 医薬品等安全対策

4－（9） 血液確保対策

現状と課題

- ・ 薬局、医薬品販売業者等に対して医薬品医療機器等法への適切な対応を徹底する必要がある
- ・ 将来にわたり、安定的に献血者を確保する必要がある

施策の方向

- ・ 薬局、医薬品販売業者等に対して、効果的に監視指導を実施
- ・ **若年層の献血協力者を増やす**ため、学校等でキャンペーン等を実施

4－（10）薬物乱用防止対策

4－（11）生活衛生対策

現状と課題

- ① 若年層の大麻乱用が拡大するなど深刻な状況が続いている
- ② 生活衛生関係営業施設の衛生水準の維持向上が重要

施策の方向

- ・ 様々な普及啓発活動等を通じて若年層へ薬物に対する正しい知識を伝える
- ・ 生活衛生関係営業施設に対して効率的な監視指導を実施するとともに、自主的な衛生管理を促進

4－（12） 食品安全対策

現状と課題

- ① 食中毒や異物混入などの発生予防のため、製造・加工・流通過程における衛生管理の徹底が重要
- ② かき生産量の9割以上を占め、かき処理業者の衛生対策の徹底が重要

施策の方向

- ・ H A C C P（※）に沿った衛生管理の徹底を図りながら、**食中毒の発生防止に重点を置いて監視指導**を行う
- ・ かき処理に係る関係者を対象とした衛生講習会を開催するなどして**安全・安心なかきの生産を支援**

※H A C C P：食品関連事業者が自ら、食品の製造・加工工程で危害を分析し、重要な管理を行う必要がある工程で継続的に監視することにより、食品の安全性を確保する衛生管理手法。

5 保健医療従事者の確保と資質の向上

図表11-1-2-13 医師、歯科医師、薬剤師数(各年12月31日現在)

区分			保健医療従事者数					
			医師		歯科医師		薬剤師	
圏域	平成24(2012)年	岡山市	2,744	(384.9)	932	(130.7)	1,897	(266.1)
		岡山地域	195	(172.5)	74	(65.5)	152	(134.5)
		東備地域	127	(133.5)	54	(56.8)	125	(131.4)
		圏域	3,066	(332.8)	1,060	(115.1)	2,174	(236.0)
	26(2014)年	岡山市	2,861	(400.4)	934	(130.7)	1,962	(274.6)
		岡山地域	194	(175.3)	75	(67.8)	155	(140.1)
		東備地域	135	(144.5)	54	(57.8)	134	(143.4)
		圏域	3,190	(347.2)	1,063	(115.7)	2,251	(245.0)
	令和2(2020)年	岡山市	3,259	(452.5)	970	(134.7)	2,187	(303.6)
		岡山地域	168	(162.8)	86	(83.3)	169	(163.8)
		東備地域	120	(136.1)	61	(69.2)	136	(154.3)
		圏域	3,547	(389.1)	1,117	(122.5)	2,492	(273.4)
岡山県	平成24(2012)年	—	5,618	(290.2)	1,735	(89.6)	3,777	(195.1)
	26(2014)年	—	5,760	(299.4)	1,715	(89.1)	3,937	(204.6)
	令和2(2020)年	—	6,290	(334.2)	1,807	(96.0)	4,281	(227.4)

()は人口10万対

いずれの職種も
岡山市に集中

施策の方向

医師：地域医療人育成センターおかもやま等に協力するなど
 歯科医師：高齢者のかかりつけ歯科医確保、在宅歯科治療
 薬剤師：県薬剤師会等が開催する各種研修事業に協力するなど

図表11-1-2-14 保健師、助産師、准看護師数(各年12月31日現在)

区分			保健医療従事者数							
			保健師		助産師		看護師		准看護師	
圏域	平成26(2014)年	岡山市	310	(43.4)	231	(32.3)	9,145	(1,279.8)	1,514	(211.9)
		岡山地域	56	(50.6)	5	(4.5)	928	(838.7)	471	(425.7)
		東備地域	62	(66.4)	5	(5.4)	551	(589.7)	287	(307.1)
		圏域	428	(46.6)	241	(26.2)	10,624	(1,156.4)	2,272	(247.3)
	28(2016)年	岡山市	319	(44.3)	266	(36.9)	8,424	(1,169.1)	1,443	(200.3)
		岡山地域	59	(54.3)	3	(2.8)	1,000	(920.6)	415	(382.1)
		東備地域	59	(64.3)	4	(4.4)	594	(647.7)	270	(294.4)
		圏域	437	(47.5)	241	(26.2)	11,616	(1,261.4)	2,128	(231.1)
	令和2(2020)年	岡山市	342	(47.5)	284	(39.4)	10,751	(1,492.6)	1,206	(167.4)
		岡山地域	62	(60.1)	2	(1.9)	998	(967.1)	322	(312.0)
		東備地域	67	(76.0)	2	(2.3)	601	(681.8)	230	(260.9)
		圏域	471	(51.7)	288	(31.6)	12,350	(1,354.7)	1,758	(192.8)
岡山県	平成26(2014)年	—	936	(48.6)	453	(23.5)	20,926	(1,087.6)	5,119	(266.1)
	28(2016)年	—	974	(50.9)	517	(27.0)	22,563	(1,178.0)	4,828	(252.1)
	令和2(2020)年	—	1,069	(56.8)	553	(29.4)	24,240	(1,287.7)	4,151	(220.5)

()は人口10万対

施策の方向

看護職員：県看護協会等の実施する研修へ参加しやすいよう環境づくりを行うなど

その他：各職能団体等と連携し、技術向上のための研修等を進めるなど